

18歳男性結腸癌の1例

小牧市民病院外科

小寺 泰弘 末永 裕之 寺嶋 康夫 奥田 哲也
鳥井 彰人 禰宜田政隆 谷口 健次 余語 弘

CARCINOMA OF THE COLON IN AN 18-YEAR OLD MALE

Yasuhiro KODERA, Hiroyuki SUENAGA, Yasuo TERASHIMA,
Tetsuya OKUDA, Akihito TORII, Masataka NEGITA,
Kenji TANIGUCHI and Hiroshi YOGO

Komaki Municipal Hospital, Department of surgery

索引用語：若年者結腸癌，結腸粘液癌

はじめに

20歳未満の若年者に発生する結腸癌は，全腸管癌の0.2%にすぎないとされ¹⁾，本邦ではわれわれの調べ得た範囲で67例の報告があるにすぎない^{2)~4)}．今回われわれは18歳男子結腸癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する．

症 例

症例：18歳，男性．

主訴：腹痛，腹部膨満感．

既往歴，家族歴：特記すべきことなし．

現病歴：昭和62年1月頃より腹痛があり近医を受診，以後も症状が続くため，2月当院内科を受診し腹部単純写真上ニボーが散見され，イレウスの診断のもとに入院となった．

入院時現症：体格は中等度．貧血，黄疸はなし．心音，呼吸音は異常なく，腹部膨満を認め，右下腹部に腫瘍を触知した．

入院時検査所見：貧血なし，肝機能正常，各種腫瘍マーカーは正常範囲内であった(表1)．

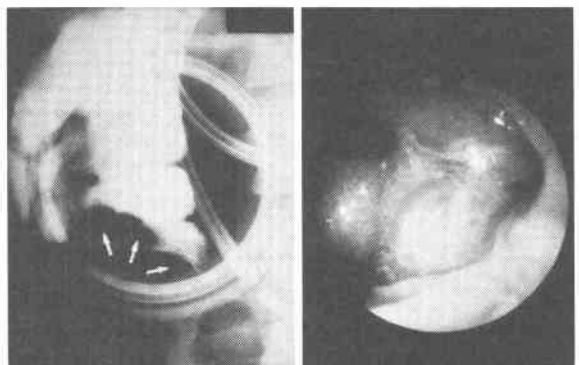
腹部単純X線所見：小腸ガスが散見された．イレウス管挿入後経過観察となったが，改善は得られなかった．

注腸透視：上行結腸に閉塞像があった．大腸ファイバーでは，肝弯曲の口側に明らかな隆起性病変を認めたが，これ以外にポリープなどの病変は認めなかった(図1)．生検の病理組織では悪性所見を認めなかった

表1 入院時検査所見

総蛋白	7.6 g/dl	アミラーゼ	58 U
アルブミン	5.1 g/dl	血糖	97 mg/dl
T-Bil	0.68 mg/dl	CRP	2+
D-Bil	0.16 mg/dl	Na	140 mEq/l
GOT	14 IU/l	K	4.3 mEq/l
GPT	11 IU/l	Cl	100 mEq/l
ALP	10 KAU	Ca	9.8 mg/dl
LDH	240 IU/l	CEA	4.6 ng/ml
γGTP	6.4 IU/l	AFP	1.6 ng/ml
LAP	39 IU/l	WBC	5200 /mm ³
Ch-E	1.2 ΔpH	RBC	473×10 ⁴ /mm ³
TTT	0.5 U	Hgb	14.8 g/dl
ZTT	1.2 U	Hct	42.9 %
T-cho	138 mg/dl	Plt	22.5×10 ⁴ /mm ³
BUN	12.7 mg/dl		
クレアチニン	1.0 mg/dl		
尿酸	5.5 mg/dl		

図1 注腸透視(左)と大腸内視鏡(右)所見．注腸透視では上行結腸の完全閉塞を，内視鏡では隆起性病変を認める．



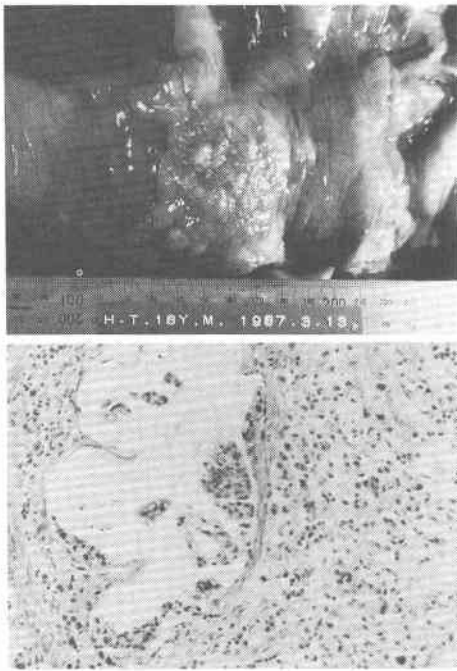
が，形態学的に悪性腫瘍を疑い，昭和62年3月13日手術を施行した．

手術所見：上行結腸上方に小児手拳大の腫瘍があり，ここで狭窄をきたしていた．触診上硬く触れ，周

表2 若年者(20歳未満)結腸癌の本邦報告例

報告者	年次	年齢	性別	発生部位	組織型	進行程度	転帰	主要症状	術前診断
1 塩川	1935	18	男	上行結腸	?	?	2月	死	?
2 大河原	1938	14	男	回盲部	粘液癌	?	3月	死	虫垂炎穿孔
3 本田	1952	17	男	S状結腸	粘液癌	?	?	腹痛	大網腫瘍
4 岩瀬	1958	16	女	横行結腸	腺癌	?	6月	死	下血
5 諏訪	1961	19	男	横行結腸	粘液癌	?	?	腹痛, 嘔吐	腹満
6 石黒	1962	19	女	横行結腸	腺癌	?	?	腹痛, 嘔吐	腹満
7 木村	1962	19	男	上行結腸	粘液癌	?	?	?	嘔吐
8 西野	1963	19	男	上行結腸	腺癌	?	1年3月	死	腹痛
9 斎藤	1964	16	男	上行結腸	?	Stage V	?	腹痛	虫垂炎
10 田中	1966	16	男	横行結腸	粘液癌	?	1年4月	生	腹痛
11 杉本	1967	12	女	下行結腸	粘液癌	?	24日	生	嘔吐
12 杉本	1968	17	男	横行結腸	粘液癌	?	19月	死	腹痛, 便秘
13 古川	1968	19	女	S状結腸	粘液癌	Stage V	1月	死	腹満, 腹痛
14 古川	1968	18	男	横行結腸	腺癌	?	?	嘔吐	下痢
15 矢島	1969	11	男	横行結腸	印環細胞癌	Stage V	5月	死	腹痛
16 宮野	1969	13	男	上行結腸	粘液癌	Stage III	1月	生	腹痛
17 細馬	1969	16	男	横行結腸	分化腺癌	Stage I	2年6月	生	腹痛, 嘔吐
18 鎌田	1970	18	女	横行結腸	腺癌	?	1年6月	死	腹痛
19 小林	1970	10	女	下行結腸	腺癌	Stage I	1年9月	生	血便
20 菅	1971	12	男	下行結腸	粘液癌	Stage V	3月	死	腹痛, 腹満
21 山田	1972	18	男	上行結腸	腺癌	Stage III	10年	生	腹痛
22 山村	1973	17	男	横行結腸	腺癌	Stage V	6月	死	腹痛, 腹満
23 伊賀	1973	13	女	横行結腸	粘液癌	Stage IV	4月	生	嘔吐
24 朝日	1973	17	女	横行結腸	腺癌	Stage V	?	生	腹痛
25 秋本	1974	17	男	S状結腸	粘液癌	Stage III	1年	生	便秘
26 星野	1974	13	女	横行結腸	粘液癌	Stage IV	1年2月	生	腹痛, 嘔吐
27 多田	1974	14	女	S状結腸	腺癌	?	?	?	?
28 岩淵	1974	13	男	下行結腸	粘液癌	?	1年	生	腹痛, 腹満
29 松村	1975	14	男	横行結腸	印環細胞癌	?	1年2月	生	?
30 大田	1975	13	男	上行結腸	粘液癌	Stage II	2年	生	腹痛, 腹満
31 中村	1975	14	男	肝弯曲部	腺癌	Stage IV	1年2月	生	腹痛, 貧血
32 山際	1975	14	女	S状結腸	腺癌	?	?	?	?
33 中川	1975	15	男	S状結腸	?	?	?	死	?
34 中笠	1976	12	男	肝弯曲部	腺癌	Stage I	>1年	生	腹痛, 腹満
35 大野	1976	17	女	盲腸	低分化腺癌	?	?	生	腹痛
36 江上	1977	12	男	横行結腸	印環細胞癌	Stage IV	8月	死	腹痛, 腹満
37 山下	1977	13	女	上行結腸	印環細胞癌	Stage V	10月	死	腹痛, 腰痛
38 清水	1977	15	男	横行結腸	粘液癌	?	1年	死	腹痛, 腹満
39 関川	1977	11	男	横行結腸	腺癌	?	6月	生	?
40 北川	1977	13	女	S状結腸	中分化腺癌	Stage V	5月	死	血便
41 浜田	1977	15	男	上行結腸	粘液癌	Stage V	5月	死	腹痛
42 郡山	1978	10	女	S状結腸	腺癌	Stage IV	2年	生	血便
43 福田	1978	19	女	下行結腸	高分化腺癌	Stage II	12年	生	腹痛
44 福田	1978	19	女	横行結腸	高分化腺癌	Stage V	2年2月	死	腹痛, 下痢
45 武藤	1978	18	男	横行結腸	高分化腺癌	?	34月	生	腹痛, 腹満
46 今泉	1978	13	男	横行結腸	?	?	?	死	嘔吐
47 新垣	1979	10	男	S状結腸	粘液癌	Stage V	2月	死	腹痛, 便秘異常
48 石川	1979	16	男	横行結腸	粘液癌	Stage V	5月	死	腹痛
49 則武	1979	11	男	横行結腸	腺癌	Stage I	6月	生	貧血
50 末永	1979	17	男	上行結腸	高分化腺癌	Stage IV	?	生	腹痛, 嘔吐
51 仲宗根	1979	16	男	横行結腸	腺癌	Stage IV	3年6月	生	嘔吐, 下痢
52 中野	1979	13	女	S状結腸	低分化腺癌	Stage V	6月	死	血便, 排便痛
53 小泉	1980	14	男	S状結腸	粘液癌	?	15月	生	腹痛, 嘔吐
54 山内	1980	11	男	下行結腸	腺癌	Stage I	20月	生	血便, 腹痛
55 柴田	1980	14	男	横行結腸	中分化腺癌	Stage II	10月	生	腹痛, 嘔吐
56 里村	1980	10	男	横行結腸	高分化腺癌	Stage I	7週	生	腹痛, 嘔吐
57 久手堅	1981	14	男	横行結腸	粘液癌	?	?	生	下痢, 腹痛
58 横山	1981	9	女	S状結腸	粘液癌	?	?	生	血便, 腹痛
59 児玉	1981	19	男	S状結腸	高分化腺癌	Stage II	4年	生	腹痛, 便秘
60 溝部	1981	15	男	S状結腸	粘液癌	Stage V	?	生	下痢, 腹痛
61 斎藤	1982	15	男	横行結腸	腺癌	Stage V	5月	死	倦怠感, 貧血
62 上田	1982	11	女	下行結腸	粘液癌	?	?	?	腹痛
63 前田	1983	12	女	下行結腸	粘液癌	Stage V	9月	死	腹痛, 嘔吐
64 川本	1983	13	男	S状結腸	粘液癌	Stage IV	2年	生	血便
65 志知	1983	19	女	下行結腸	?	Stage V	2月	死	呼吸困難
66 陳	1983	19	女	下行結腸	粘液癌	?	?	?	?
67 自験例	1987	18	男	上行結腸	粘液癌	Stage III	11月	死	腹痛, 腹満

図2 摘出標本(上)と病理組織像(下, HE染色, ×200). 病理組織像では印環細胞の索状増成と粘液湖の形成を認める.



囲に多数のリンパ節を触知したため、術式は3群リンパ節郭清を伴う結腸右半切除術とした。

摘出標本肉眼所見：塊状で明らかな潰瘍形成はしめさず、I型、S₂、N₂(+)、P₀、H₀、M(-)、stage IVであった(図2)。

病理組織学的所見：粘液湖の形成を認め、一部に腺管形成を認める粘液癌の所見で、漿膜下層にいたる印環細胞の索状増成、浸潤を示し ss, ly₂, v₁, aw(-), ow(-), 1群リンパ節に転移を認め、組織学的進行程度はstage IIIであった(図2)。

シスプラチン、5-FUによる補助化学療法を6クール施行したが、術後7か月でイレウス症状をきたし、再入院となった。この際 computerized tomography (CT)、超音波検査では肝転移、局所再発の所見はなかった。さらに胸腹部に皮膚転移が多数出現し、新たにシスプラチン、アドリアマイシン、エトポシドによる化学療法を行ったが効なく、イレウス症状の増悪に加え、disseminated intravascular coagulation を合併して大量吐下血をきたし、術後11か月で死亡した。

剖検所見：全身に皮膚転移を認めた。小腸、結腸は相互に癒着し、胃より直腸に至る全消化管粘膜に明瞭

な周堤を有する転移巣が多発した。腸粘膜下のリンパ小節に癌細胞の著明な浸潤を認め、これらを起点として転移巣が粘膜面に突出していること、肺、肝に転移巣を認めないことよりリンパ行性の転移と思われた。腹膜播種も軽度で認めた。

考 察

若年者の結腸癌については多くの文献があるが、何歳以下を若年者とするかについて統一的な見解がないため、その考察内容もまちまちである。本邦では一般に、40歳未満を若年者とする場合が多く⁵⁾⁶⁾、欧米では不良と報告されている⁷⁾⁸⁾予後についても様々な見解があり、むしろ若年者のほうが予後が良いとする報告⁵⁾、治癒切除率では高齢者と差がないとする報告⁶⁾も

表3 若年者結腸癌の診断

自覚症状(59例中)		
腹痛	45例	76%
嘔吐	17例	29%
腹部膨満感	13例	22%
血便、下血	8例	14%
便通異常	7例	12%
発熱	2例	3%
術前診断(52例中)		
イレウス	18例	35%
癌	14例	27%
その他の腫瘍	10例	19%
虫垂炎	6例	12%
腹膜炎	4例	8%

平均病期期間 6.3か月

表4 若年者結腸癌の予後(記載のある48例について)



1年累積生存率 55.8%
2年累積生存率 44.3%

表5 組織型と進行程度分類

組織型(62例中)		
高分化腺癌	6例	48%
中分化腺癌	2例	
低分化腺癌	2例	
腺癌	20例	52%
粘液癌	28例	
印環細胞癌	4例	
進行程度分類(39例中)		
Stage I	6例	15%
Stage II	4例	10%
Stage III	5例	13%
Stage IV	8例	21%
Stage V	16例	41%

ある。20歳未満を対象を絞ると、症例数も大幅に減少し、ポリポーシスに合併した症例を除外すると、過去の文献より検索し得た範囲で67例⁹⁾の報告があった(表2)。これらを考察して20歳未満若年者結腸癌の特徴を見ると、男女比は7:3で明らかに男性に多い。主訴は、腹痛45例(76%)、嘔吐17例(29%)、腹部膨満感13例(22%)と、非特異的であり、術前に癌と診断されていたのは、わずか14例、27%であった(表3)。特に、粘液癌の場合、粘液下に浸潤性に広がり、術前の生検において、本症例のごとく陰性に出ることがあるので注意を要するものと思われる。予後が判明している48例より算出した1年累積生存率は56%と不良であった(表4)。組織型としては年齢を問わず予後不良¹⁰⁾とされている印環細胞癌4例、粘液癌28例で合わせて52%をしめており(表5)、成人例と趣を異にした。これが若年者症例の予後を悪くする要因と思われる。3年以上生存している4例は、いずれも中～高分化腺癌であった。また、各文献の記載をもとに進行程度分類を試みたが、分類可能であった39例中Stage IV症例8例、Stage V症例16例で合わせて62%をしめ(表5)、進行例が多い。術式の記載されている41例中、治癒切除術施行例は18例であり、治癒切除率は44%と不良であった。非切除ないし非治癒切除症例23例中14例が癌性腹膜炎をきたしていたのが特徴的であった。これに対し、肝転移の記載があるのは1例のみであった。

結 語

18歳男子の結腸粘液癌に対し結腸右半切除術を施行した。症例は術後11か月で腫瘍死し、剖検では皮膚、

胃、小腸、大腸に多発性の転移を認めた。20歳未満の若年者結腸癌には予後の悪い粘液癌が多く、さらに、進行癌が多く、しばしば癌性腹膜炎をともなり、治癒切除率は44%、1年累積生存率は56%と不良である。

なお本論文の要旨は第31回日本消化器外科学会総会において発表した。

文 献

- 1) 斎藤 明：岩永外科における結腸癌の統計的観察。日外会誌 63:104-112, 1962
- 2) 川本 充, 浜里真二, 森理比古ほか：小児結腸癌の1例。臨と研 62:2199-2203, 1985
- 3) 児玉 憲, 榎本克己, 岡田浪速ほか：若年者結腸癌の1例。和歌山医 33:89-93, 1982
- 4) 柴田昭彦, 淵上知昭, 井上完夫ほか：小児結腸癌の1例ならびに小児結腸癌本邦報告例の検討。胃と腸 16:697-701, 1981
- 5) 寺部啓介, 酒向 猛, 杉本一好ほか：若年者大腸癌の臨床病理学的検討。日臨外医会誌 45:1574-1578, 1984
- 6) 西田 修, 佐野文男, 佐藤直樹ほか：若年者大腸癌の病態及び治療成績。日消外会誌 17:1758-1762, 1984
- 7) Middlecamp JN: Carcinoma of the colon in children. pediatrics 32:558-571, 1963
- 8) Andersson A: Carcinoma of the colon in children. A report of six new cases and a review of the literature. J ped Surg 11:967-971, 1976
- 9) Suresh KG, Romeo LC: Adenocarcinoma of colon in a child. J Pediatr Gastroenterol Nutr 5:973-976, 1986
- 10) 弥政晋輔, 廣田映五, 板橋正幸ほか：大腸粘膜癌の臨床病理学的研究。日消外会誌 21:75-81, 1988